

子どもの頻尿について

千葉県小児科医会 おおしま ひろこ 大嶋 寛子 医師

こども急病電話相談

受診するべきかどうか迷ったら

#8000

毎日夜7:00～翌朝6:00

※相談は無料ですが、通話料はご負担いただきます。

ダイヤル回線・IP電話・光電話・銚子市からは
☎043 (242) 9939

▶ 子どもの尿回数

1～2歳: 2時間おきで8～12回

3～4歳: 3時間おきで5～9回

4歳以降: 3～6時間おき4～8回

子どもの排尿回数は、年齢によって異なり、成長に伴って少なくなってきます。

4～5歳を過ぎても1日のトイレ回数が10回以上、またトイレに行く間隔が2時間より短い場合は「頻尿」を疑います。

▶ 頻尿の原因

体の病気が原因の場合と、ストレスや緊張など心理的要因が原因となる心因性頻尿があります。

▶ 頻尿の原因になる病気

「尿路感染症(膀胱炎)」

頻尿・排尿時の痛み・尿が出にくい・すぐトイレにいく・残尿感などの症状がみられます。大腸菌などの細菌が感染しておこります。尿検査で、白血球や細菌を調べ、抗菌薬による治療が必要になります。発熱を伴うときは、上部尿路感染症(腎盂腎炎)の可能性ががあります。

「過活動膀胱」

尿を出そうと思っていないときに膀胱が勝手に縮んでしまい、「おしっこを出したい・我慢できない・漏れそう」という感じがおこるのです。

子どもの膀胱容量は小さく、膀胱や尿道の機能が未熟なため起こることが多く、成長とともに自然に治ることがほとんどです。頻繁に尿漏れ

があったり、5歳過ぎても尿漏れが続くときには、検査や治療が必要になることがあります。

「尿崩症」

多飲(水分のとり過ぎ)でも頻尿になりますが、まれに「尿崩症」という病気が原因で多飲多尿がみられることがあります。尿崩症は、尿を濃縮する抗利尿ホルモンが働かず、尿が多くなり、異常にのどが渇き、多飲になります。

「糖尿病」

小児糖尿病では、のどの渇きや多飲多尿、頻尿で夜間も起きるなどの症状がみられます。

▶ 受診が必要な目安

頻尿に伴い、排尿時の痛み・血尿・腹痛・発熱など体の症状、多飲があるときは、まず、かかりつけ小児科を受診しましょう。

▶ 心因性の頻尿について

心因性の頻尿は、「トイレに行っても尿が少ししか出ない・排尿痛や腹痛など体の症状がない・寝ている間はおしっこをしない・遊んでいる間など夢中になっている場合は尿意をもよおさない」などが特徴です。一過性のこともあります。トイレが頻繁で集中できないなど、日常生活に支障が出たり、症状が長引いているときには小児科に相談しましょう。

